

令和6年度伊豆市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

伊豆市の水田では402haで水稻が作付けされ、そのほとんどが主食用米となっている。市内の6割以上の水田で基盤整備されているが、整備されている集落であっても中山間地域のため、作業効率の向上が望めず、面的集積がなかなか進まない現状となっている。特に米については担い手の減少や高齢化が進んでおり離農者が多くなっている。転作作物として推進している大豆については、圃場が限定された中での栽培のため、連作障害が発生し収量の減少や品質の低下がおきている。さらに、獣害や害虫による収量の減少も問題となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

伊豆市の気候や圃場条件等に適した高収益作物の導入について検討し、生産技術の導入・普及についても併せて関係機関の協力のもと進めていく。

高収益作物導入の際には、産地交付金の新規取組助成及び作付助成の活用や、伊豆市新規作物導入支援補助事業の活用により新規参入者を支援する体制づくりを進める。

また、国の戦略作物については、引き続き産地交付金を活用するとともに、伊豆市奨励作物支援事業補助金を活用し、生産を支援していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水稻を組み入れない作付体系が数年以上定着し、畑作物のみを生産し続けている水田がないか、今後も水稻作付に活用される見込みがないか等の点検を進めていく。転作作物を作付している水田については、畑地化促進事業を活用した畑地化への支援を行う。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

令和6年産米については、静岡県産米の需要予測を基に需要に応じた米の生産に取り組む。

特に、売れる米作りを目指し、地域ブランドを確立するため、県の慣行基準(農薬成分使用回数や化学肥料使用量)の5割減による特別栽培米の普及・推進を図っていく。

特別栽培米は早生品種の「コシヒカリ」と、令和3年度より新たに指定した中生品種の「きぬむすめ」の2品種だが、「きぬむすめ」に関してはまだ取組者が少ない状況である。高温耐性を有し、県でも普及を促進している「きぬむすめ」に取り組む農業者を増やしていくことで全体の収穫量の増加を目指す。取組者増加のため、農地利用集積を活用し特別栽培米の普及を支援する補助制度の創設や、引き続き学校給食への提供を行い、地産地消を推進するなど管内の農業協同組合と連携し、生産拡大を目指していく。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、養鶏農家を中心に畜産農家からの需要も多いため、担い手等への農地の集積を推進し、生産性の向上を図っていく。

また、大豆の連作障害への対策として、ブロックローテーションに飼料用米の栽培を取り入れることも検討する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

大豆について、湿害を回避するための排水対策の実施、鳥獣被害対策の実施、機械の導入による省力化・機械化体系の構築に努めていく。不作だった令和2年度と比べ令和4年度及び令和5年度は収量を回復したが、連作障害や水はけの悪い圃場では生育不良が起こっていたため、新たな圃場での生産や、ブロックローテーションを本格的に検討していく。

また、連作による病害虫の発生が問題となっているため、管内JA及び農業共済と連携し、圃場巡回を行い、適切な病害虫防除を行う。病害虫防除の方法として、産地交付金を活用し、ヘリコプターによる農薬散布を行うことで労働時間を削減し、農業者の負担軽減を図っていく。

(4) 高収益作物

令和2年度よりJAと共同で試験栽培を行っている畑わさびについて、地域おこし協力隊や農業法人等を誘致し、担い手の増加と作付面積の拡大を目指す。

5 作物ごとの作付予定面積等

別紙のとおり

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	402		402		402	
備蓄米						
飼料用米	0.4		0.4		1	
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS用稲						
加工用米						
麦						
大豆	8.5		8.8		8.8	
飼料作物						
・子実用とうもろこし						
そば						
なたね						
地力増進作物						
高収益作物						
・野菜						
・花き・花木						
・果樹						
・その他の高収益作物						
その他						
畑地化						

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	大豆	大豆の低コスト生産支援	作付面積及び病害虫防除作業時間の縮減	（5年度）8.5ha、0.74時間/ha	（6年度）8.8ha、0.8時間/ha （7年度）8.8ha、0.8時間/ha （8年度）8.8ha、0.8時間/ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:静岡県
協議会名:伊豆市地域農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	大豆の低コスト生産支援	1	5,620	大豆	病害虫適期防除、排水対策等

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。
ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。
※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載して下さい。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。